

2025 年度(後学期)学生による授業評価アンケートについての総評

2026 年 03 月 15 日

浦安キャンパス FD・SD 委員会

2025 年度後学期に浦安キャンパスで行われた「学生による授業評価アンケート実施結果」(各学部学科および各センター)の集計結果について、以下のような総評を提示する。

□ アンケート実施の概要

(1) 実施期間等

* HT 学科(GMM)ST1 科目：2025 年 10 月 18 日(土)～10 月 31 日(金)

→アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 11 月 04 日(火)

* HT 学科を除く全学科：2025 年 12 月 03 日(水)～12 月 16 日(火)

→アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 12 月 17 日(水)

* 中間フィードバック：講義期間中の任意の時期(講義担当教員の裁量によって実施時期を決定した)

→(授業改善の PDCA サイクル促進のため、教員は授業期間中の任意の時期に授業評価以外の任意の方法で学生から授業に関する意見等のフィードバック(中間フィードバック)を受け、それを可能な範囲で当該学期中の授業改善に取り入れ、過去の事例を含め、改善された事項等を学生に伝えることとした。集計結果分析及び授業改善策の作成に際しては、その結果について記載するよう努めた)

(2) 対象授業科目

* 各教員がアンケート実施時期に担当している全講義を対象とした。

(ただし、ゼミ科目、履修者数 5 名以下の授業科目および再履修者のみが履修する授業科目を除いた。また、1 教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合、履修者最多の授業科目を対象とする。なお、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加した)

(3)実施方法

＊講義受講生は、アンケート実施期間中に、PC やスマートフォンなどを利用して、アンケートの回答を行った。

＊アンケートは、全講義の共通設問に加え、設問内容を講義担当教員が自由に設定できる設問(B-1・B-2)を設定することができ、このアンケートを実施する場合は、教員はアンケート実施期間初日の前日までに、manaba のコースニュースによって受講生に質問内容を伝えた。

→HT 学科(GMM)ST1 科目：10 月 17 日(金)

→HT 学科を除く全学科：12 月 02 日(火)

(4)周知方法

アンケート実施についての概要は、実施期間 1 週間前までに Web ポータルシステム等で学生および教員に周知した。

→HT 学科(GMM)FT1 科目：10 月 11 日(土)

→HT 学科を除く全学科：11 月 26 日(水)

(5)その他

アンケートの内容、集計、公表、事務およびその他の事項は、「2025 年度学生による授業評価アンケート実施に関する取扱い」に従った。

(6)回答区分

アンケートの設問に対する回答は、5 段階評価(5. 満足、4. やや満足、3. どちらともいえない、2. やや不満、1. 不満)で行われた。

(7)アンケート集計結果等の活用方法

アンケート集計結果等は、次のような用途に活用される。

＊担当教員の授業改善努力の促進

＊担当教員への授業改善の提案

＊カリキュラム改善のための基礎資料

＊FD・SD 活動のための基礎資料質問項目

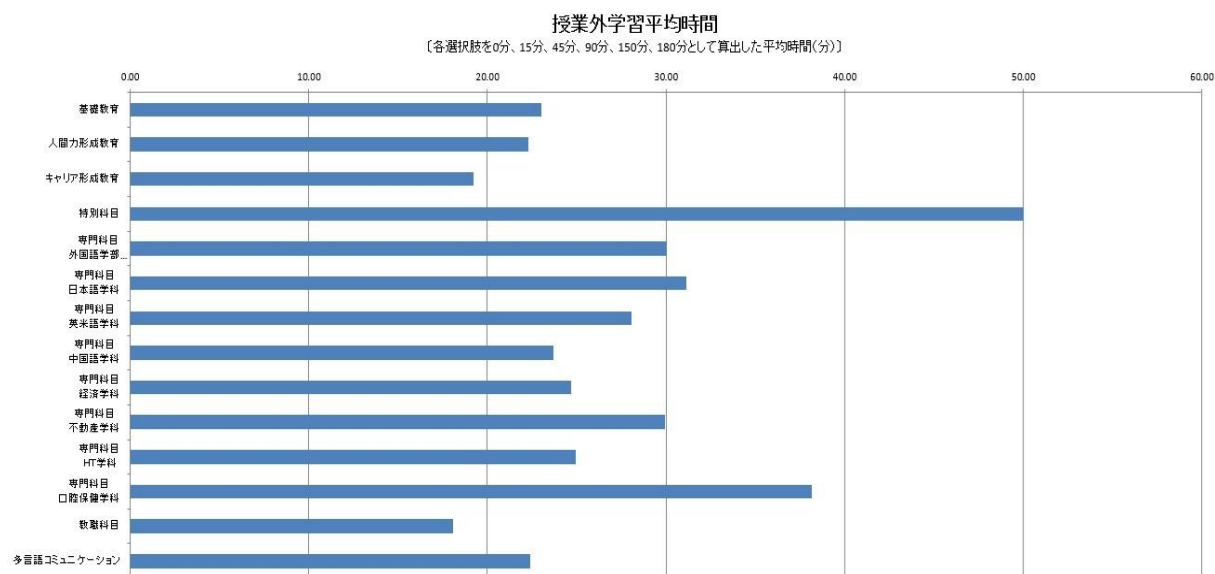
② アンケート結果の考察

表 1：科目区分別アンケート集計結果

2025年度後学期授業評価アンケート集計結果(科目区分別)																	明海大学浦安キャンパスFD・SD委員会			
			全体	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 GS関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュ ニケーション			
対象科目数			554	20	44	22	16	32	33	72	20	88	39	75	34	21	38			
履修者数			20,500	576	2,600	869	261	923	1,227	1,415	240	4,860	2,848	1,547	1,425	412	1,297			
回答者数			7,446	306	762	559	162	359	503	542	127	1,301	876	870	469	196	414			

質問	No.	質問文	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 GS関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュ ニケーション
		平均時間(各選択肢を0分、15分、45分、90分、180分として算出した平均時間(分))	23.04	22.30	19.21	50.00	30.04	31.14	28.09	23.71	24.71	29.95	24.94	38.15	18.06	22.37
A-2	1	板書(スライド)の文字・画像等)・配布物は読みやすかったですか	4.56	4.46	4.53	4.78	4.53	4.63	4.59	4.69	4.52	4.21	4.59	4.21	4.73	4.55
	2	教員の説明はわかりやすく、授業の進み具合は適切でしたか	4.52	4.45	4.53	4.78	4.56	4.67	4.55	4.72	4.53	4.20	4.61	4.21	4.73	4.55
	3	授業の内容をよく(理解)できましたか	4.36	4.31	4.39	4.74	4.38	4.56	4.41	4.50	4.37	4.01	4.45	4.15	4.71	4.47
	4	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.52	4.40	4.50	4.78	4.48	4.63	4.53	4.65	4.50	4.20	4.54	4.30	4.73	4.57
	5	授業はシラバスの内容に沿って実施されていましたか	4.55	4.44	4.49	4.73	4.52	4.62	4.58	4.61	4.55	4.24	4.57	4.37	4.67	4.57
	6	この授業に興味や関心が湧きましたか	4.17	4.36	4.25	4.70	4.34	4.57	4.45	4.43	4.34	4.09	4.48	4.16	4.70	4.45
	7	この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.39	4.42	4.38	4.71	4.46	4.62	4.48	4.62	4.47	4.14	4.56	4.20	4.72	4.53
B-1	8	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B-2	9	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図 1：授業外学習平均時間

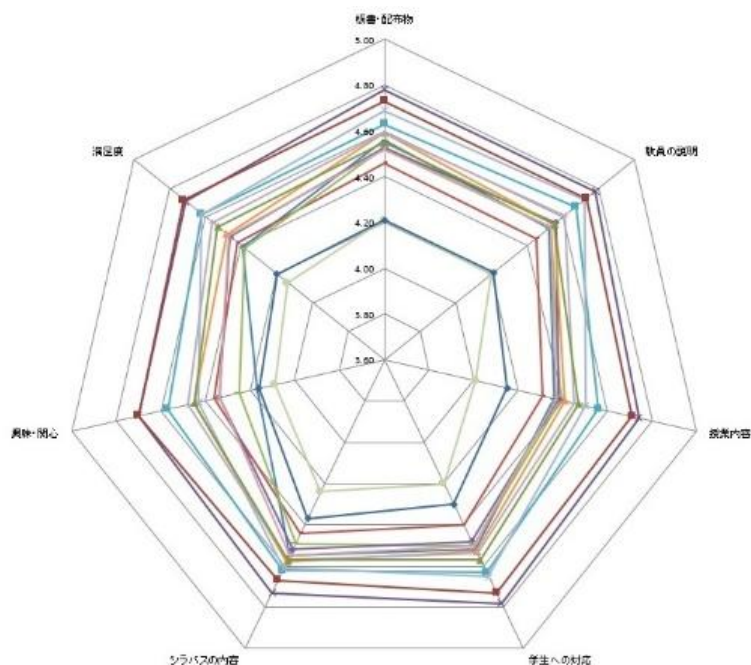


(1) 履修者数および回答者数について

表 1 および図 2 は、浦安キャンパスで講義を提供する全部署における、科目区分別アンケート集計結果を示したものである。履修者数は延べ 20,500 人、回答者数は 7,446 人となった。表には回答率は示されていないが、前述の 2 つの人数から単純に算出される回答率は、約 36.32%となる。この数値の解釈には慎重さが求められるが、今回得られたデータは、浦安キャンパス全体の授業評価に関する貴重な情報を提供している。一方で、各部署(各学科および各センター)においても、また、学修成果等アンケートにおいても、回答率の向上が全学的な共通目標として認識されており、引き続き取り組

むべき課題である。回答率を高めることで、より精度の高いデータに基づいた授業改善が可能となり、教育の質向上にさらに貢献できると考えられる。

図 2：アンケート設問別回答平均値(部署別)



前学期の総評でも言及したが、東(2018)は、学生調査において回答率が 20%程度であっても、その大学における学生全体の学修行動の質的な特性は、多くの場合は概ね把握できるが、そのようなケースでは、少数の際立った特性が強調されやすいと指摘している。そして、安定的な結果を得るためには 60%程度の回答率が求められるとも述べている。この点についての詳細は、以下の論文を参照されたい。

＊東 京一(2018)「学修行動調査における回収率とその結果の関係―回収率 3 割や 6 割の調査結果は何を伝えるか」『第 7 回大学情報・機関調査研究集会論文集』，pp. 20-25. (DOI: https://doi.org/10.50956/mjir.7.0_20)

(2) 平均学習時間について

図 1 は、授業外の学習平均時間(部署別)を示している。最大値でも 50 分程度という結果となったが、この数値を単純に実態と受け取るには留意が必要である。学生は平均的に、1 学期あたり概ね 20 単位、またはそれ以上の履修申告をしており、学習の密度や質は講義によって異なることが推察される。したがって、今回の数値は回答者が「授業外学習時間」をどのような範囲で定義して回答したかによって左右される可能性があり、今後は設問の定義をより明確にすることで、実態をより正確に把握できる

と考えられる。

なお、結果表の解釈について、次のようなことがいえる。各部署において行われている講義は、それぞれ異なる性質を帯びた内容、性質、形態で実施されていることから、授業外の学習時間については、単に平均値を部署別結果の棒グラフで検討するということに積極的な意味はない。むしろ、講義形態や分類ごとに見た回答の分布を把握することが重要である。この観点から、散布図、算術平均、四分位偏差、標準偏差、分散などの統計的指標を示し、結果の多角的な検討が求められていると判断する。

(3) 設問別回答平均値について

表 1 の中段および図 2 は、アンケート設問別回答平均値(部署別)を表している。結果として示された項目の全数値が 4 を超えており、これは回答した受講生が浦安キャンパス内で開講されている講義を全体的に高く評価していることを示している。これは、各部署の教員が日々の授業改善に真摯に取り組んできた成果として、前向きに受け止めることができる。ただし、東(2018)の指摘を踏まえれば、約 36%という回答率のもとでは、特定の傾向が強調されやすい面もあるため、今後はさらに回答者層の多様化を図り、より代表性の高いデータを得ることが望ましい。また、設問別の差が小さい点については、設問設計の精緻化や分析手法の工夫により、より深い考察につなげることが期待される。

(4) 講義担当教員によるアンケート結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>について

講義アンケートの結果を検討する際は、学生が示した回答の数値のみならず、教員が提示した、集計結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>の内容を分析することも必要であろう。

この項目については、教員が日々の指導において真摯に向き合っている様子が報告されている。本報告書では、その一端を紹介するが、現場の教員が学生のより良い学びのために工夫と努力を重ねている姿を読み取ることができる。

まず、前学期と同様に、受講生の私語についての指摘がある。授業環境の維持は学生全体の学習効果に直結することから、複数の教員が改善を求めており、大学全体で継続的に取り組むべき課題として共有されている。

また、講義中のスマートフォン操作や教室の出入りについても、一部の教員から改善を求める声が上がっている。真剣に学ぶ学生の学習環境を守るためにも、こうした行動に対する適切なルールの明示と、学生への周知・啓発が有効であると考えられる。大学全体で授業マナーの向上に向けた取り組みを進めることで、すべての学生にとってより良い学習環境を実現することが期待される。

講義の予習・復習については、複数の教員から学生の自律的な学習習慣の定着を促したいという声が寄せられている。ある教員は、講義1回あたりの予習・復習時間が1時間未満の受講生が80%を越えているというアンケート結果を踏まえ、授業内容の定着をさらに高める工夫の必要性を認識している。他の教員も、授業内外の学習をより効果的に関連づけることで、学生の理解度を深めたいという積極的な姿勢を示している。また、the amount of time spent studying for this class outside of the classroom の増大を受講生に促している教員もあり、授業外の時間を予習・復習に活かすよう丁寧に働きかけている実例も報告されている。こうした教員の取り組みは、授業と自主学習を有機的に結びつけ、学生の主体的な学びを引き出そうとする姿勢の表れであり、引き続き支援・共有していくことが望ましい。

一方、学生の読み書き能力や情報リテラシーについては、継続的な支援の必要性が指摘されている。レポートや答案の作成において、文章表現の基礎的なスキルをさらに伸ばす機会を提供することが求められており、大学としてのライティング教育の充実が期待される。また、インターネットや Chat GPT などの AI ツールの利用については、学習ツールとしての有効な活用と不適切な使用の区別を学生が正しく理解できるよう、大学全体での指導体制を整えることが急務である。ある教員は、学生が tend to be too accustomed to using their smartphones or PCs to look things up on the internet or with AI in their studies と指摘しているが、これは AI リテラシー教育の充実により解決できる課題でもある。インターネットや AI などのツールの利用に関する明確なガイドラインを学生に周知するとともに、適切な活用を促す教育的アプローチを検討することが、教育の質向上に向けた建設的な一歩となるであろう。

③ アンケートの結果に基づく今後の課題と残存する問題

この報告書では、2025 年度後学期における講義アンケートの集計結果を通じて、浦安キャンパスの授業運営における現状と今後の方向性を考察した。全体として、受講

生による講義評価は高い水準にあり、各部署の教員が真摯に教育の質向上に取り組んでいることが確認できる。一方で、回答率の向上、授業外学習の促進、授業環境の整備、そして AI・情報ツールの適切な活用指導など、全学的に継続して取り組むべき共通課題も明らかになった。アンケートの実施方法や質問項目についても、より実態を反映したデータが得られるよう、継続的な改善が期待される。

特に、(4)で取り上げた教員からの声は、現場における教育への真剣な向き合いの表れであり、大学として丁寧に受け止めるべき貴重なフィードバックである。講義運営の円滑な実施や学生との良好なコミュニケーションについて肯定的な報告も多く寄せられており、こうした優れた実践を学内で共有・継承していくことも重要である。今後は、(4)で示された取り組み課題についても、FD・SD 活動の一環として組織的に検討し、教員・学生・大学が一体となって教育環境の充実に図ることが期待される。